

1 学校教育目標

本県教育委員会の教育指導の指針及び教育指導の重点に基づき、綱領「自主自律・質実剛健・師弟同行」のもと、生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら、徳・知・体の調和のとれた生徒を育成する。即ち、心身を鍛え、知性を磨き、徳性を涵養して将来に備える。

・理想とする教育理念

綱領の具現化に努め、生徒一人ひとりの豊かな心の育成を第一に、夢の実現に向けた基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、その基盤となる体力の向上を図る。

・求める生徒像

自信と誇りを持ち、品性ある言動を心掛け、地域の方々に愛され、信頼される徳・知・体の調和のとれた生徒。

2 本年度の重点目標

(1) 学力の向上

① 早期に基礎的・基本的な知識と技能の定着を図ると同時に、思考力、判断力、表現力等を育み、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすよう努める。

② 授業時間の確保と授業内容の充実に努めるとともに、家庭における予習・復習の時間を確保し、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

(2) 一人ひとりの夢の実現に向けた進路指導の充実

① 個に応じた指導を充実させ、生徒の進路目標達成に邁進する。

② 面談や進路希望調査、進路講演会等を通して、生徒一人ひとりの進路意識を高め、早い段階で目標を明確にし、その達成に向けた指導の徹底を図る。

(3) 生徒指導の充実

① 部活動と学習のバランスをとり、家庭学習時間を確保し、集中力を大切にして文武両道に努め、生き生きとして明るく規律ある学校生活となるよう指導の充実を図る。

② 生徒の発達段階に応じて、好ましい人間関係を育み、学校生活への適応や、自己理解を深めさせるとともに、人格形成への支援に努める。

(4) 人権教育の推進と特別支援教育の充実

① 人権・同和教育に対する教職員・生徒の認識を深め、正しい知識や人権感覚を身につけ、あらゆる差別・いじめの解消に積極的に取り組む。

② 生徒の発達段階に応じて、好ましい人間関係を育み、学校生活への適応や、自己理解を深めさせるとともに、人格形成への支援に努める。

(5) 校内推進体制の整備

① 「生徒確保」のための魅力的な学校づくりや、入学時の生徒の実態に応じた指導の充実を図るため、組織的な授業改善等に積極的に取り組む。

② 業務効率化や勤務時間削減のために、部活動休養日の設定、教育環境整備や情報機器の活用を推進する。

(6) 家庭・地域との連携

① ホームページやメディア等を活用した積極的な広報活動を通して、本校の教育活動や生徒の活躍を家庭や地域社会へ広く紹介し、学校と家庭・地域社会との連携を深める。

② 地域社会でのボランティア活動を推奨し、可能な限り参画する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	本校の教育目標を理解している。	カリキュラム・マネジメントの実践	・全職員が、本校教育目標の具現化に向けた教育活動に取り組む。	・各部の業務実施計画などを点検し、教育目標との関連を明らかにする。 ・授業改革に全職員で取り組む ・カリキュラム・マネジメント研修を実施する。	A	○各部の自己評価シートと年度末反省を一体的に行うことができた。 ○授業に対する評価アンケート値が上昇した。 ○研修を実施し、その目的を浸透させた。
	組織体としての一体感を醸成する。	職員の連携・情報共有、協力体制の整備	・運営委員会以外でも各部・各係の連携及び調整や検討を密にする。 ・生徒情報の共有	・組織の在り方を見直す。 ・個人の積極的な取組を推奨し支援する。 ・組織的な動きの中	A	○前向きな挑戦を否定せず、情報共有できる学校風土の醸成が前進した。 ○学校魅力化の発信で

			化による、教職員全員での「凡事徹底」の指導。	で、部を超えた協働作業を推奨し支援する。		は部を超えた協働作業が実現した。
	快適な職場環境づくりを行う。	・業務の見直し ・休暇の取得率向上	・校務改革の具体的提案・実践。 ・働き方改革を推進し、年休取得率向上により、心身のリフレッシュを図る。	・部活動指針を徹底するなど、メリハリのある働き方を推進する。 ・衛生委員会を定例で月1回実施し、教職員の体調等の早期把握と共有を行い、早期対応につなげる。	B A	○部活動指針の徹底を図った。 ●働き方の改善にはつながっていない。 ○衛生委員会の毎月開催が実現できた。
学力向上	教育目標に沿った教育課程が編成され、教職員の共通理解により適切に運用されている。	・適切な教育課程の編成 ・教育課程の適切な運用	・学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒にとってより良い教育課程となるように見直しを行うとともに新学習指導要領についての情報収集と教育課程の編成を行う。 ・行事などの早期把握につとめ、適正な授業時間の確保に努める。	・他県や他校を含めた教育課程について情報収集し、教育課程検討委員会で検討する。 ・全教科シラバスを作成し、提示する。 ・他の部署と連携した行事予定の設定をする。 ・授業時数をカウントし、曜日調整等を行う。	B A	○新教育課程は、複数案を提示し、各教科での検討を進めている。今年度中にまとめるところまで達成。 ○全教科のシラバスは、新型コロナの影響により変更を余儀なくされたが、修正しまとめることができた。
	適切な学習指導がなされている。	・分かりやすい授業の実施 ・自主的・自発的な学習の支援 ・個に応じた適切な指導 ・授業改善の取組	・自宅学習時間調査を実施し、細かな学習状況把握と学習支援を行う。 ・生徒の進路希望に応じた個別指導と基礎学力向上対策の充実を図る ・クロスカリキュラムの実践 ・授業改善「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・Classiの活用を推進する	・授業評価アンケートを年2回実施する。 ・自宅学習時間調査を年2回実施し、面談等の資料として提供する。 ・長期休業中の特別補習授業を計画し、実施する。 ・進路希望別クラス編成を実施し、進路指導にいかす。 ・難関大学進学希望者個別指導を実施する。 ・授業改善や、クロスカリキュラムの実施について職員研修を行う。 ・研究授業を各教科年1回以上実施する。 ・Classiについて生徒へ課題やアンケート配信、ポートフォリオとしての活用を研究する。	B A A	○授業評価アンケートの結果を授業の振り返りに活用した。授業の説明の仕方や進め方、ねらいの明確さや生徒自ら考える場の設定などの項目で、5段階中平均4.3と概ね良好な評価であった。 ○Classiを利用して自宅学習時間調査を実施し、細かな学習状況の把握に努めた ●学習時間の増加はなかった。さらに個に応じた丁寧な支援が必要。 ○3学年では、希望進路による習熟クラスを設定し、多様な進路希望に対応した学習指導ができた。 ○新型コロナのため、校内のみの公開授業を実施した。高校教育課の訪問を活用し参観を促進した。 ○クロスカリキュラムの実践は着実に広がった。 ○オンライン学習については一人一台のタブレット端末が配布された。活用法の研究を進めた。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の組織的推進	キャリアパスポートの実践	・効果的な課外授業の立案と実施 ・キャリアパスポートの活用と定着	・課外受講希望者に対する進学課外を実施し、基礎学力を充実させる。 ・キャリアパスポートを作成し、振り返りを	B	○課外授業は可能な範囲で実施できた。 ●キャリアパスポートの有効活用の方法を確立する。 ○新型コロナで中止に

				キャリア充実につなげる。 ・インターンシップを実施する。		なったが、準備と意識づけまで行うことができた。
	進路情報や個人的資料が収集・活用されている。	進路決定の参考になる資料の提供	・大学入学共通テストに向けての対応策の研究を推進する ・効果的な公務員受験者対策に向けた研究を推進する ・模試結果の分析と定期的な進路情報の提供	・各教科へ共通テスト問題研究を依頼し、情報収集を進める。 ・公務員希望者生徒保護者集会を実施し、対策を共通理解する。	A	○公務員希望者生徒保護者会を実施できた。 ○模擬試験データの見方の動画資料を作成した。 ●面談を通して模擬試験データのさらなる有効活用を図りたい。
		進路検討会の実施		・各学年で進路検討会を実施し、課題の分析とその解決方法を探る。	B	○模擬試験、進路検討会は計画通りに実施し、分析・活用することができた。
	進路相談は適切に行われている。	個人面談の充実	・年間を通した二者面談を推進する	・年間3回の面談週間を実施する。	B	○空き時間の少ない中で担任による個別面談を実施することができた。 ●教科担任による個別面談等を行いたい。
生徒指導	学校全体で生徒指導に取り組む体制が整備されている。	「高校生活の心得」の徹底	・生徒への指導事項を職員全体で共有し全員で指導に取り組む。 ・生徒自身による生徒のための生徒会活動を目指す。	・挨拶や礼儀などの「しつけ」指導の徹底 ・リーダーの養成（生徒会・クラス・部活動等）	A	○挨拶などはよく出来ている。 ○生徒会は自主的に活発な活動を行った。
	規範意識の向上に向けた指導を行っている。	・全校集会における指導の徹底 ・HRにおける指導の徹底	・全職員による規範意識の高揚を推進し、服装の整備や遅刻指導の徹底に全職員で取り組む。	・全職員が同じルールの下で指導していくように、定期的に協力を呼びかける。 ・生徒指導部の取り組みを積極的に発信する	A	○先生方によく協力していただいた。生徒部からの発信をより心掛けたい。
	安全への意識向上の指導を行っている。	交通違反・事故の減 自転車二重ロックの推進	・年間を通じて安全指導を心掛け、必要に応じて集会を実施する ・学校環境の整備を行い、防犯体制を強化する	・自転車・バイク通学生の安全指導の徹底（校外指導の実施・バイク実技講習の実施） ・安全で安心できる学校生活環境づくり	B A	○集会は計画通り実施できた。 ●外部からの苦情が多かった。 ○効果は出ているため、二重ロック点検を継続したい。
	保護者や地域社会との連携が整っている。	P T A との連携 近隣校との連携	・地域の活動に参加することで、地域での生徒の生活情報を入手する ・必要な場合は積極的に他校と情報交換する	・山鹿市青少年育成巡回へ参加する。 ・生徒指導のルールなどについて情報交換する。	A A	○全て参加できている。 ○他校と情報交換の機会も持てた。
	生徒の自主的・自発的な活動がなされている。	部活動、各種委員会の活性化	・効率的な練習に取り組む質の向上を図る ・各委員会を委員長主導の形で運営	・時間を効率よく使い、メリハリのある生活を指導する。 ・生徒中心の生徒会活動を実施する。	A	○生徒会・部活動は活発な活動が出来ている。
	人権教育の推進	人権意識の向上に向けた取組をすべての教育活動を通じて行う。	・職員研修の実施 ・教育相談部の活用	・教職員の人権感の向上 ・自他を大切に尊重できる生徒の育成	・生徒理解研修を実施する。 ・SCによる職員研修を実施する。	B A
豊かな人間関係づくりに向けた指導を行う。		一人ひとりの生徒が尊重される環境づくり	・コミュニケーション能力の育成 ・自主自律および自己決定能力の育成	・心のアンケート・心と体の振り返りシートを活用した実態把握と支援を行う。 ・LHRでのツェッセルスキル・トレーニングを充実させる。	B	○心のアンケートは振り返りシートを実施し、状況把握をスムーズにできた。 ●課題を抱えた生徒に対してチームで対応する体制づくり。

					○SSTを10月に実施。休校により出遅れたクラスの人間関係づくりを後押しした。	
	命を大切に する心を育 む指導を行 っている。	人間とし ての在り 方・生き方 の自覚の 深まり	・自己肯定感の育 成	・教育相談・カウンセ リング体制を充実す る。 ・積極的アプローチを 行う。	A	○12月までにカウ ンセラー1.7回来校、相 談件数42件。継続的 に支援をしていただ いている。
いじめ の防止 等	インターネ ットや携帯 によるいじ めなどの防 止に努め る。	教師と生 徒の双方 による現 状の理解	・情報モラル教育 の充実・徹底	・講演会を実施し、外 部専門家の力を借り て、予防に努める。	B	○7月に講演会を実施 した。 ●大きな問題はない が、今後裏アカなど課 題は多い。
	「いじめを 未然に防ぐ」 体制・意識の 確立。	・「いじめ 問題対策 委員会」の 活用 ・「ネット いじめ等 早期対応 推進事業」 の活用	・共同生活の中で 思いやりの心を育 み、いじめ等の未然 防止に取り組む。	・スクールサインの登 録を励行する。 ・生徒会による生徒へ のいじめ防止の呼びか けを行う。	B	●「いじめはある」との 認識を常に持ち、初期 対応を大事にしたい。 ○スクールサインの情報 提供に速やかに対応 できた。
地域連 携(コミュ ニティ・ス クールなど)	学校運営協 議会(防災 型コミュニ ティ・ス クール)の設 置、運用。	生徒の防 災意識の 高揚	・生徒、職員の防災 意識の高揚を図る ための防災教育の 推進。	・避難訓練の実施、防 災だよりの発行。	A	○防災教育と併せて避 難訓練を12月に実施 できた。 ○防災だよりを3回発 行。
		地域と一 体となっ た災害時 の連携体 制の構築	・避難所運営等に 係る体制整備。	・避難所として学校を 利用 する視点からの校内施 設設 備の確認及び教職員の 役割 の明確化。 ・地域、行政と連携し た災 害時対応マニュアルの 検討。	B	○本校防災マニュアル について学校運営協 議会で検討した。 ○地域、行政と連携し た災害時対応マニュ アルについては、市防 災管理課と連携を図 り進 めることができている。
	総務部とP TA(保護 者)との連 携。	総務部関 連行事、P TA活動 の活性化	・各学年・各部・P TA役員(保護者) と連携し、学校行事 の円滑な運営に努 める。 ・城北地区高等学 校PTA指導者研究 大会の研究発表 に向けての準備を 進める。	・各学年のクラス役員 とのZOOMを使っ ての会議を実施し、 学年委員長並びに 役員決定をする。 ・城北地区高等学 校PTA指導者研究 大会への案内を早 めに行い参加者 を募る。	B	○9月に各学年ごと の学年委員会を 実施し、各学年の 学年委員長並び に役員決定した。 ●zoomの使い方講 習会を行ったが、 活用には到らな かった。
	奨学金など の支援活動 を確実かつ 適切に行 う。	・保護者・ 生徒への 周知の徹 底 ・適切な事 務処理	・保護者、生徒へ 奨学金の情報を提 供し、生徒の就学 の支援をする。	・教室掲示や安心安 全メール等で情報 提供をし、必要に 応じて説明会を 実施する。	A	○連絡を細やかに 行ったため、昨年 度よりも保護者 からの問い合わせ や訪問が少な かった。
	地域の自然 や文化財、 伝統行事な どの教育資 源を活用す る。 地域団体 (住民)と の連携を活 発にする。	・地域の伝 統行事等 への理解 と参加	・「総合的な探究 (学習)の時間」 の再構築	・「総合的な探究」 の時間について、 学年担当者が原 案を作成し、「総 研」で提案、研 究開発部で共有 する。	B	○新型コロナの渦 の中でも様々な 工夫をしながら、 連携を維持でき た。
		・地域団体 ・地域住民 との交流 促進	・生徒のボラン ティア活動の積 極的参加を推 進する。 ・生徒の中高 連携行事を推 進する。	・地域の行事・ボ ランティア活動 などについて、 積極的に紹介し、 参加を促進す る。		●現状、ほぼ全 て行われてい ない。経過をし っかり見守り たい。

アンケートでは生徒評価が昨年の下降傾向を脱し、「学校行事の積極的な参加」と「部活動や生徒会活動」「掃除への取組」の項目では高い評価であった。新型コロナの影響で、行事縮小のなか地域によって育まれた前向きな本校生の気風が現れている。また、「教育環境」の整備については、事務部が環境の整備のために積極的に取り組んだ結果である。「入学して良かった」との評価が大幅に向上しており、一時的なものかもしれないが遅滞の無い学習活動の再開や文化祭や体育祭を縮小しながらも実施できた事が大きいのではないかと思われる。

保護者評価については、生徒と比較すると高い。また「入学させての満足度」の評価が高く職員一人一人が取り組んだ努力の成果が、鹿本高校への満足度を高めていると考えられる。「興味関心を引き出す授業の工夫」については、生徒保護者が捉えている感覚と職員の取り組んでいる意識の間にギャップが存在する。

職員評価は昨年度と大きな変化はないが「地域や保護者からの信頼」については、下がっている。交通関係に関する地域からの苦情や、新型コロナで地域のために前向きにボランティア活動できていないことなどが職員の意識にあるのではないか。本年度は後期入試で初めてグローバル探究コースが定員割れせずに受験者を迎える状況となった。普通科は依然定員割れが激しい状況で全入状態であり、個に対応した指導に職員は腐心している。「生徒指導の徹底」や「掃除の徹底」などについては下降傾向にある。

評価委員会では委員の方々から校長のリーダーシップの下、教育目標の浸透が図られていることや、本校生徒の学習へ向けての態度、地域と一体となった取組が高く評価された。何より、生徒保護者の満足度の高まりを高く評価された。苦情の件については、どのように対応したのかが信頼につながるなどの助言も受けた。また、保護者の立場からは、新型コロナの影響で保護者が集まる機会が減ることで、教育に関する情報交換の場が減ることが懸念されるとの意見もいただき、今後のPTA活動の在り方についての重要な提言として取り組んでいきたい。今後も、教育活動を充実させる新たなチャレンジを行い、学校の魅力化を進め、地域での学校の信頼獲得に向けて努力をしたい。

5 総合評価

学校評価アンケートの結果や自己評価及び学校関係者評価から、本校の綱領である「自主自立・質実剛健・師弟同行」、教育理念である「綱領の具現化に努め、生徒の心の成長を第一に、次に生徒の思いを実現させる基礎学力を養成し、そして生徒の心を維持する体力を養成する」という目標については、実現できている。

進路指導は受験方式の変更と新型コロナによる新たな取組のため、大変難しい舵取りであったが、模擬試験の見方の動画を配信するなど変化に対応した取組を行った。学習指導に対してはさらに積極的に授業を改善し、興味関心を引き出す工夫が求められる。「クロスカリキュラム」や「総合的な探究の時間」の取組は研究開発部を中心に充実してきており、このことが次期教育課程への布石になっている。生徒指導については、こまめな交通指導や安全指導を行っており、指導の共有化へ向けて取組を始めている。情報発信では、主幹教諭を中心とした数名でプレゼンテーションを充実させ中学校訪問を行い、指導教諭の「グローバルジャーナル」や総務部の「鹿モン通信」やPTA新聞の地域への発信など、学校を開く新たな発信もできた。

特別な支援が必要な生徒に対する学校の支援の在り方や、いじめの対応などについては、研修を通して職員の感度を高めていかなければならない。人権教育及び命を大切にすることを育むとともに引き続き全職員で取り組んでいく。

6 次年度への課題・改善方策

一人一台端末事業について、情報活用推進リーダーが中心となり試行錯誤しながら準備を進めている。また、SSH申請も終わり、結果待ちの状態である。本校の教育活動の特色とも言える、クロスカリキュラムや総合的な探究の時間については、職員の負担感を減らしながら研修を行い、授業改革を先導する研究開発部の役割も明確になっている。今年度の県立教育センターとの協力関係は研究協力員に留まったが、オンライン研修の活用なども含めて職員研修のさらなる充実を図っていきたい。主幹教諭が主体となった本校の魅力発信の取組については、来年度以降も強化を続け、協力関係の強化を図るとともに、同じ地域の中学校と連携した教育活動が実践できないかを模索していく。また、本年度山鹿中学校の校内研究に参加したが、他校種からも吸収すべきものは積極的に取り入れ、信頼関係を築くとともにさらに連携を深めていく。生徒指導部は、地域との連携に向け山鹿市青少年育成巡回に毎回参加し校内での指導の共通理解を図る取組を進めた。進路指導は、新たな受験やキャリアパスポートの導入、新型コロナへの対応などに十分に対応しており、保護者への適切な情報提供の在り方を含め来年度以降も積極的な情報収集・発信に努めたい。働き方改革の推進は、本年度、毎月の衛生委員会でしっかりと議論し面談等も行ってきたが、職員の時間的余裕を生み出す必要がある。休暇取得の推進も含め積極的に取り組みたい。昨年度は「鹿本高校に入学して良かった」という生徒は70%であったが、本年度は75%まで上昇した。来年度は80%を超えるよう努力していきたい。

	保護者・地域の方々に学校の活動内容を理解していただいている。	定期的で適切な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業、授業公開、授業評価アンケートを計画・実施する。 三年間を見通した「進路指導年間計画」の改善と周知を図る 研究開発部の取組の本校ウェブサイトでの配信推進 広報班と連携し、PTA活動に関する情報の発信に努める。 各分掌と連携した情報発信の徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の高校や中学校や保護者に向けた公開授業期間を設定する。 各学年1回保護者集会を実施し、共通理解を図る。 進路通信、進路のしおりを発行し配付する。 研究開発部の授業改善等の取組を、写真や動画で記録し、本校ウェブサイトにて配信する。 PTA 広報委員会を開催し、PTA 新聞「めいりん」を定期的に発行し、地域広報にも活用する。 正確な情報を確実に家庭に届けるために、安心安全メールと連動する。 中学生へのプロモーション活動に努める。 HP 更新のための職員研修の充実に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナのため、校内のみの公開授業を実施した。 ○各学年の保護者集会は実施できた。 ○紙媒体による情報発信はできた。 ●保護者向けの進路講演会等を実施できなかった。オンライン等の工夫を模索したい。 ○様々な実践をHPで発信できた。広報やまがにも掲載された。 ○OPTA 新聞を地域にも配付した。 ○中学生向けの学校紹介ムービーを作成した。 ○オープンスクール体験学習などを検討し、生徒主体の者として実施できた。 ○ホームページ更新職員研修を実施した。
保健安全管理	保健・健康教育に関する指導体制が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会の活性化 学校保健委員会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育の推進 生徒保健委員会活動の活性化 性教育・エイズ学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 体育科と連携し、計画的な健康教育、性教育を実施する。 毎朝の健康観察表の提出管理を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒保健委員会を中心に、保健教育や感染症対策を実施することができた。 ○学校保健委員会の開催ができなかったが、書面開催を実施できた。
	安全点検や環境美化に関する取組に努力している。	<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所の点検 美しい学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検の実施 環境美化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検表の提出を徹底する。 美化委員会を活性化させ、掃除や、共用部分の消毒の徹底をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○每学期安全点検を実施することができた。 ○生徒会を中心に放課後共用物の消毒をすることができた。
教育環境整備	施設設備の安全・維持管理のための点検整備がなされている。	安心して教育活動に取り組める環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 不良箇所への速やかな対応、修繕 特定建築物指定に伴う環境衛生の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の安全点検や随時の巡回や情報収集による不良箇所のピックアップを行い、長期・短期の視点に立った計画立案と予算確保を関係課と連携し行う。 建築物環境衛生管理基準に基づいた、空調、給排水、清掃、害虫駆除を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○事務部と連携し、感染症対策用品を揃えていただくことができた。(加湿器、扇風機、非接触型体温計など)
図書館教育	メディアリテラシー能力(情報を評価・識別する能力)を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 読書習慣の定着 学習・探究・情報センターとしての図書館づくり 	図書館の有効活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 書架の案内の整理、新刊案内を工夫する。 総合的な探究の時間の取組と連携する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○WiFi やホワイトボード等の整備が進み授業でも使いやすくなった。

4 学校関係者評価

本校では5年前から保護者・生徒・職員に同じ内容のアンケートを実施し、三者の意識や評価を比較・分析できるようにしている。また過去三年間の経年比較も実施している。学校関係者評価委員会では、本年度より各部自己評価表を元に本校の総務部・教務部・生徒指導部・進路指導部・研究開発部が取組を整理し、三者アンケート結果の分析について説明を行った。また、次年度より学校評議員会から学校運営協議会(総合型)へ移行する説明も加えた。